

SCG088-P17

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

日本海東縁ひずみ集中帯におけるGPS稠密観測 (序報)

Dense GPS observation in the strain concentration zone along the Eastern Japan Sea margin (preliminary report)

鷺谷 威^{1*}, 伊藤 武男¹, 高橋 浩晃², 三浦 哲³, 太田 雄策³, 加藤 照之⁴, 竹内 章⁵,
宮崎 真一⁶, 田部井 隆雄⁷, 松島 健⁸, 中尾 茂⁹, 棚田 俊收¹⁰, 原田 昌武¹⁰, 奥田 隆¹,
堀川 信一郎¹, 河野 裕希²

Takeshi Sagiya^{1*}, Takeo Ito¹, Hiroaki Takahashi², Satoshi Miura³, Yusaku Ohta³,
Teruyuki Kato⁴, Akira Takeuchi⁵, Shin'ichi Miyazaki⁶, Takao Tabei⁷, Takeshi Matsushima⁸,
Shigeru Nakao⁹, Toshikazu Tanada¹⁰, Masatake Harada¹⁰, Takashi OKUDA¹,
Shinichiro Horikawa¹, Yuhki Kohn²

¹名古屋大学, ²北海道大学, ³東北大学, ⁴東京大学, ⁵富山大学, ⁶京都大学, ⁷高知大学, ⁸九州大学, ⁹鹿児島大学,
¹⁰温泉地学研究所

¹Nagoya University, ²Hokkaido University, ³Tohoku University, ⁴The University of Tokyo, ⁵University of Toyama,
⁶Kyoto University, ⁷Kochi University, ⁸Kyushu University, ⁹Kagoshima University, ¹⁰Hot Springs Research Institute

我々は「ひずみ集中帯の重点的調査・観測」の一環として、2008年度から日本海東縁ひずみ集中帯にあたる新潟県上越・中越地域で稠密GPS観測を実施している。日本海東縁ひずみ集中帯では、東西方向の短縮変形が幅50-100kmの狭い範囲に集中し、過去に大地震も多数発生しており、その変形メカニズム解明や地震発生ポテンシャル評価が喫緊の課題である。非地震時に変形集中しながら、2004年中越地震、2007年中越沖地震などの大地震も発生しており、これらの地震を起こす応力の蓄積過程の解明が重要な問題である。そこで、我々は、変形集中が見られる幅80km程度の範囲に数km間隔でGPS観測点を設置し、ひずみ集中帯内部の変形の微細構造を明らかにすることで、変形メカニズムを明らかにしていく予定である。2008年に新潟県系魚川市・上越市・十日町市・南魚沼市・柏崎市・長岡市に約50ヶ所の観測点を設置し、3?6週間のキャンペーン観測をこれまでに2度実施した。現在2009年の観測で得られたデータ解析を進めており、講演では、この結果得られた2008年から2009年の1年分の地殻変動解析結果について発表する。

キーワード:ひずみ集中帯,地殻変動, GPS

Keywords: strain concentration zone, crustal deformation, GPS